



# 東九州支部報



慶州南山山頂(金鰲山)にて (5月4日)

## 韓国山岳会蔚山支部との 交流登山参加報告

飯田勝之

五月一日(金)

午前五時二三分大分発「ソニック二号」で出発。別府より二名乗車で計九名が今回の日韓交流登山参加の訪韓団だ。博多駅七時二〇分に到着。直ちに福岡国際港へ移動し、釜山行き「ビートル」の乗船準備。九時〇〇分、ほぼ予定時刻に釜山へ向けて出港する。玄界灘は波もさほどなく、快適な高速船の旅は三時間で終えて釜山港へは、予定よりわずかに遅れて到着。釜山港には蔚山支部が手配してくれていた貸し切りバスと通訳兼ガイドの男性が迎えてくれた。

釜山の食堂で『石焼きビビンバ』の昼食をとり、蔚山での交流会までの余裕時間を観光に使うことに。行き先は当方の希望により「金井山・梵魚寺」へ。釜山の北のはずれにあるこの寺は、六七八年に創建された禅寺の総本山で、多くの文化財と遺跡を保有し、境内の数多い歴史の遺跡だけでなく、お寺周辺の景観が美しく釜山で一番大きな寺だ。韓国五大寺刹の一つであるとともに、蔚山の通度寺(二年前に我々が訪れた寺)といっしょに嶺南の三大寺刹として嶺南仏教の中心軸を形成している。

我々が訪れたこの日は、韓国の仏教界では一年で一番大切な日、『釈迦誕生祭』の前日、蓮の花をイメージした提灯が広い寺の境内いっぱい飾り付けられている途中であった。旧暦の四月八日は日本の「花祭り」に当たる祭りで、全国のお寺とその門前は一年で一番にぎわう日であるとのこと。祭りの前夜に当たるこの日も大変にぎわっていて、本堂では熱心に祈りを捧げる信者達であふれていたが、なぜかそのほとん

### 《 も く じ 》

|             |    |
|-------------|----|
| 韓国山岳会蔚山支部との |    |
| 交流登山参加報告    | 1  |
| 参加者の感想など    | 5  |
| 参加者名簿       | 8  |
| アルバム        | 9  |
| コースタイム      | 12 |

(提灯で飾られている参道)



地へ移動だ。最初に案内してもらったのが当方の依頼による、市内の大きなスーパーマーケット。ここで三泊四日のロッジ滞在中の自炊の食材購入だ。ハンゲル文字の包装の食材をあれやこれやと戸惑いながら、迷いながらの買い物で、時間がかかる。

どが女性であった。祭の準備であたただしくもぎやかな寺を後にして、バスは高速道を使って蔚山へ移動。二年前に滞在した「雲門山自然休養林」へ一六時半に到着。場所は同じだが、使用するロッジは前回と違って少し奥まったところであり、大きな一戸建てのロッジだ。内装等を取りニューアルしたばかりとのこと、真新しい感じがする。あてがわれた部屋は二つで、大きな部屋に男性六名、小さな部屋は女性が三名。大部屋は広くて六名にはゆったりし過ぎていて、小部屋の方は三人には少し狭くて気の毒な感じ。貸し切りバスとガイドはここで

午後七時から蔚山支部のセツトした韓国料理の店で交流会。この店は二年前と同じところで、約三〇名の韓国の仲間が我々の到着を待っていて、盛大に歓迎してくれた。最初に具永喆蔚山支部が歓迎のあいさつ、続いて加藤団長が梅木支部長のメッセージを代読のあと、蔚山市韓日親善協会の李秉稷会長が歓迎のあいさつに立ち、五月一日付の「蔚山毎日」というローカル紙が、スポーツ欄で我々の訪韓を報道していることを説明してくれた。(この新聞は、我々全員に配られている) このあと、司会の蔚山支部朴総務理事が韓国の参加者の全員を紹介し、さらに加藤団長が東九州支部の参加者を紹介し乾杯となった。韓国の焼酎が主なお酒で、日本からおみやげで持参した「いいいちご」は韓国の人たちにもふるまわれた。四回目となる酒宴の交流会で、なじみの顔も多く、すっかりうち解けた和やかな懇親会が続いた。午後八時四〇分、終宴となり韓国の会員に連れられて宿泊場所へ移動。移動は今回も韓国の会員が三台で我々をロッジまで送ってくれた。

일본 산악인 영남알프스 오른다
한·일 산악회 울산·큐슈지부 '친선 산행' 오늘부터 4박5일
관광자원 홍보·민간교육 활성화 기대
「蔚山毎日」新聞に掲載された韓日交流登山の記事

前回の初日の最後のピーク「陵洞山」から、さらに南西に延びる稜線上の峰で「天皇山」(チョンファンサン)と「戴菓山」(チヨウヤクサン)だ。車は二年前の初日の下山地で、二日目の登り口であったベネ峠を越えて下っていく。珠岩村の登山口へ。登山口の広場の駐車場には軽食の店などもある。
ほぼ三〇分に一度の休みを繰り返しながら登っていくと、約二時間半で広い台地に出た。スキに被われたこの台地は天皇山と戴菓山の間で広がる鞍部の一部で「酒幕」という名がつけられている。木道が設けられたスキの原は稜線上部を霧が被っていて、地形が見渡せない。
荒れた林道が左方向から来て、右に山腹を巻いて続いている。地

五月二日(土)曇
朝四過ぎから起きて朝食づくりや弁当のおにぎりづくり。朝食をすませて出発を待つ間に、ロッジの前で準備体換などをしていると、次々と車が到着する。その中の三台に三人づつ分乗し、定刻の八時に出発する。今日登る山は二年前に登った嶺南アルプスの続きで、我々九名に具支部長ほか十二名が付き添ってくれる。立派な木の階段が登り口だ。出発前にその階段の前でまず記念写真の撮影。
八時三五分出発。登山道は珠岩溪谷に沿って登っていく。緯度的には日本の岐阜・長野南部あたりと同じなので、九州と比べてやや芽吹きが遅く、谷沿いの木々はまだ淡い新芽が多く、稜線付近には

図を見るとこの林道は二年前の初日の最後のピーク「陵洞山」の中腹を巻いてベネ峠に至っている。ここより当初の予定を変えて、この林道を通って先に「天皇山」へと向かう。広い鞍部は風が強く、深い霧が絶え間なく流れている。今にも雨が降ってきそうな気配である。

稜線上の鞍部は「獅子峠」で、ここより登る途中に二つの大きな黄色い四角なテントで造られた食堂兼休憩小屋？を見て、次第に急になる斜面を登っていく。露岩の多い急斜面を三〇分ほど登ると「天皇山」山頂だ。

(天皇山山頂にて)



「天皇山」という呼称は昔の日本統治時代の印象を残すので「チ

(戴菓山山頂にて)



ヨンファンサン」ともつばらハンダル呼称で呼ばれているという。風が強くて絶えず霧が流れ、展望は得られないが、時折り霧の切れ間に二年前に歩いた加智山から笠竺山に至る稜線をかいま見ることができ、その都度歓声が上がる。山頂で記念撮影をすまずと時刻は一二時二〇分。そこで昼食かと思いきや、『まだ、もう少し』とお預け。霧の中を下山していくと、二軒あったテント小屋の上の方に入る。黄色いビニール張りの四角な広い小屋は我々一行でほぼいっぱいになった。おにぎり弁当を開いて頬ばっている韓国人のラーメンとおでんが配られた。朴総務理事持参のにごり酒「マッコリ」もふるまわれ、ひとくちつつ味わう。

昼食後、さあ出発という頃、パラ、パラ、パラとビニールの屋根を叩く雨音。「やっぱり来たか」仕方なしに雨具をつける。雨足はさほど強くないが、風は相変わらず強い。そして雨は、出発して「獅子峠」から「戴菓山」の登りにさしかかった頃にはほとんどあがっていた。

霧の中を登ること約二五分、露 岩の多い稜線を縫うようにして登りついたのが、狭い岩の山頂の「戴菓山」。展望はないままだ。下りにかかる頃は時計は四時二〇分を過ぎていた。霧の中の下り道は「獅子峠」には戻らずに「酒幕」へ直接下り、登ってきた

渓谷沿いの道を左に分けて、前方の小高い丘のピークをめざす。登

りついた丘から左手に、少し霧が晴れて、頂上だけ隠れた「天皇山」の稜線と、その後方には今登った「戴菓山」が山頂を見せている。

丘から先は緩い稜線下りだ。道も良く、のんびりムードの下山だ。淡い桃色のヤシオツツジが咲き残っているのが点々と見られた。三〇分ほど行くと、左手頭上に大きな岩を見て、その基部を縫うようにして巻いて下りはじめる。渓谷から登る時に遙か高みにそびえていた岩峰で「シムジョンテ岩」と名付けられている。

ここから一気に急な下りとなる。何方所もロープの岩場があり、その都度必ず若い蔚山支部員がサポートしてくれる。張られたロープ

は

はかなり古いものがあり、全体重をかけるのが怖いところもあったが、全員難なく下っていく。三〇分ほど下ったところで先頭が立ち止まり、我々に何か見せようとしている。近づくとき大きな岩の縦穴洞窟だ。昔行者が修行していたと言いつつ伝説のある岩穴で、滑りやすい岩を注意しながら何人か下っていく。しかしこの穴は風穴かと思つたがただの岩屋であった。岩屋からいっそう急な下りとなる。しかし道はしっかりといて危険なところはない。「戴菓山」から下り初めて約二時間、一六時二〇分に朝の駐車場広場についた。

下山後はまた三台の車に分乗して、宿舎のロッジへ。この自然休養林はすばらしい環境で、土曜日の夕方なのでほとんどのロッジがいっぱいのような、特に中学生くらいの子どもの姿が多く、家族連れの子どもの姿のようである。この晩も自炊の予定で材料を買っていったが、韓国側の申し出で、蔚山支部女性会員の手作り料理を頂くことになる。コテージの二列の長テーブルに日韓両国の岳人が並んで賑やかな食事会となった。食事が進み、お酒のすすむと自然発生的に双方の交流会の場となる。前夜やや堅いイメージの宴会とは違い、自然の流れの中ではじまる宴は和やかそのものだ。

そこに、李さん、金さん夫妻が到着した。二人は今日が息子の結婚式なのでもちろん山には来れな

かったが、夕方わざわざ駆けつけてくれたのだ。しかも、結婚式に出したおご馳走や菓子や飾り付けなどを持参して我々にふるまってくれた。

宴はいっそう佳境に入り、蔚山支部の朴総務理事の「ブルーライト横浜」が飛び出し、加藤団長の「ハーモニカ」が出て・・・、三人の大和撫子？の『荒城の月』・・・、日韓双方の歌合戦・・・。賑やかな笑い声が週末の自然休養林に響く。

五月三日(日)曇  
今日の山は「雲門山」。早朝の食事の支度、朝ご飯、弁当の準備と、次々と片づけて玄関前で八時の出発を待つ。あとから到着した組と、前夜からいた組とあわせて七台の車で出発する。

「雲門山」は二年前に縦走した時の、加智山から西に派生した稜線上のピークで、嶺南アルプスの一番西の1000m級の山となっている。北の山麓に雲門寺があり、我々の宿舎のある雲門山自然休養林あたりも含めて、北の広い斜面一帯が「雲門面」と呼ばれている。二年前はまだ工事中だった、嶺南アルプスの東側と西側を結ぶ自動車道が開通したばかりで、峠越えをせず楽に西側に抜ける。トンネルを抜けるとそこは、山の斜面一帯にリンゴ畑が広がっている。韓国有数のリンゴの産地と聞く。

やがて道を逸れて、リンゴ畑の中の小道を山麓に向かって入り、渓谷沿いに行くときやがてお寺の下

に着いた。ここが「石骨寺」登山口だ。

蔚山支部は昨日よりも多い参加者で、日韓あわせて二十七名のパーティーとなった。美しい水が岩を削りながら流れる谷沿いの道を、登って行く。今日もウグイスやマガラ、シジュウガラなど、九州でもなじみの小鳥の音がたえず谷間に聞こえる。時折り薄日が若葉の間からこもれる、絶好の登山日和だ。

谷沿いの登りの道は昨日と同じく、登山者も多いようで良く整備されていて歩きやすい。ほぼ三分ごとに小休止を入れて登っていく。「チョングジ岩」の展望台や、「仙女滝」などを見て登っていく。一〇名ぐらいの韓国の高校生ぐらいの若者グループが追い越して登っていった。

登り始めて約二時間で小さな小屋の前に着いた。「上雲庵」という名の修行僧の寺である。ここでしばし休憩して、あとはひと登りで山頂である。十一時四〇分「雲門山」山頂到着。

薄曇りの山頂は三六〇度の展望。北は休養林のある雲門面の谷が広がり、南には真ん中に工事の自動車道とリング畑の谷が広がる。やや霽っていて、遠く連なる嶺南アルプスの山なみの高い部分は雲に隠れている。その雲が時おり切れて、わずかの間だけ加智山、陵洞山、天皇山などのピークを見ることが出来る。

先に着いていた若者集団が我々

(雲門山山頂にて)



と入れ違いに降りていった。我々は山頂で記念撮影をして、昼食休憩。おにぎりの手作り弁当が美味し。空腹が最高の料理だ」と大きなおにぎりを頬べる。

休憩約一時間で、一二時三〇分に下山開始。下りは登りと違い道の整備も悪く、マイナーなコースだ。山頂からしばらくは稜線伝いのどかで眺めの良い道が続く。「西稜」ルートだとのこと。しか「三〇分ほど下ると稜線から谷に向かっ急な下り道となる。岩が多く、至る所にロープが張られており、そのロープもいささか古くて全体重をかけるのが不安になる。そんなところは必ず蔚山支部

の若いメンバーが見守っていて、危険な時にはエスコートしてくれ

る。岩場の下りは手に持つストック

がかえって危ない。そんな時には下に放って、下ったあとから拾う。そんなりかえしの急斜面のジグザグ下りが一時間半ほど続き、谷に降りついたら登りに通った道と合流した。あとはのんびり下り約三分で一五時一〇分に登山口の石骨寺に着いた。寺のすぐ横には滝があり、清冽な水が音を立て流れ落ちている。全員が谷におり、滝壺の前の河原で記念写真の撮影(石骨寺の滝の前にて)



をする。そしてあとは四台の車に分乗して宿舎へ帰る。

宿舎へ帰ると、ビールの買い出しに行く組と、夕食を作る組とに

分かれる。今日は、韓国組は早めに準備を終えて、我々が買い出し組の帰るのを待ってる間に夕食をすませた。そのあと我々だけの小さな宴会と夕食だ。

五月四日(月)晴

この日は二年前と同じ「慶州南山」だ。車で約一時間、登山口の「龍長寺」に着いた。月曜日だというのに、車が七台も連なり、南山の登山口には蔚山支部のメンバーが一二名も集結した。午前九時五分出発。

慶州南山は標高はわずか四六八mであるが、四〇近くの溪谷と稜線があり、その中に無数のルートがある。今回我々が登るルートは二年前の登山口からかなり東にいったところから登る龍長溪谷ルートである。谷沿いの道を二〇分ほど登り、分岐を一つ過ぎると吊り橋があり、急な稜線道に変わる。この山には一四七箇所のお寺跡と、一八八基の石仏像、九六基の石塔、一三基の王陵、山城跡四箇所などの遺跡が密集していて、新羅千年の歴史を秘めた露天博物館とも呼ばれ、山全体が世界文化遺産に指定されている。

前回登ったルートにはいたる所に石仏像や石塔が見られたが、今回登ったルートにも幾つかの石仏と石塔が見られ、「慶州南山茸長寺谷、石仏座像・・・八世紀中頃のもの」と推定される」とか、「慶州南山茸長寺谷、三重石塔・・・新羅後期を代表するもので

ある」などと日本語。英語、ハン

グル語の説明看板も見られた。巨大な露岩の続く稜線は、岩場に何か所かロープが張られていて、登るほどに眺めが良くなる。

アカマツの多い稜線を登りつめると平らな広い道となり、やや急な道を上ると、見覚えのある稜線に合流した。そこは二年前に通った道で、そのすぐ先が広い山頂で「金鰲山」と書かれた見覚えのある山頂標識がある。大阪から来たという日本の観光客と会って、互いに日本語で会話する場面も。

時刻は午前十一時、少し早いが前回同様にここで昼食かと思いきや、すぐに下山にかかる。下りは稜線ルートを離れて、しばし林道のような広い道を下る。途中、「マムシ注意」という物騒な立て札が目にはいる。だいぶ高度を下げ、小さな峠のような所から樹林の中に入ると、谷沿いに、山腹を巻きながら下るようになる。多少ヤブのうるさい、南山では相当にマイナーなルートと思われる道を下る。山頂から約一時間三〇分、登りに通った吊り橋前の分岐に合流したら、そこで登らずに付近を散策していたN女史が待っていた。ここで皆そろってやっと昼食だ。

おなかを満たしたあと、一休みで下山開始、一三時一〇分に朝の登山口に着いた。ここには仕事の

ため今日の山行には同行しなかつた蔚山支部の朴総務理事(ブルーライト横浜の御仁)が背広姿で迎えてくれた。

(南山の麓でお別れ前の全員集合)



をさせてくれた。

そのあと、一路高速道路で釜山に向かい宿舎の「東横インホテル」に午後四時に到着した。夕食はみなそろって出かけて、ホテル近くの店で韓国料理を楽しんだ。

五月五日(火)

朝九時一五分にホテルから港へバスで移動し、「ビートル」の乗船時間を待つ。するとここにもまだ李顧問と金夫人が土産を持って見送りに来てくれた。二年前もそうであったが、このご夫妻の手厚いもてなしには本当に頭の下がる思いである。

ここで最後の日韓全員そろっての記念写真撮影をして、我々は蔚山支部の見送りを受けて出発する。李顧問ともう一人の運転の車二台で釜山まで送ってくれるという。

時間があまるからと「国立慶州博物館」へ案内してくれた。ここには先史時代から朝鮮時代に到る遺物二二万点あまりが所蔵され、その中で三〇〇〇点あまりが展示されているという。広い敷地の中に考古館、美術館、雁鴨池(月池)館、特別展示館などと展示館が分かれていて、博物館の野外庭園にも多くの遺物が展示されている。入場は李顧問がカードを見せたらフリーパスで我々全員が入れた。そこでは、約一時間、全員が勝手に場内を歩き、各自の好みに応じた鑑賞

時間があるからと「国立慶州博物館」へ案内してくれた。ここには先史時代から朝鮮時代に到る遺物二二万点あまりが所蔵され、その中で三〇〇〇点あまりが展示されているという。広い敷地の中に考古館、美術館、雁鴨池(月池)館、特別展示館などと展示館が分かれていて、博物館の野外庭園にも多くの遺物が展示されている。入場は李顧問がカードを見せたらフリーパスで我々全員が入れた。そこでは、約一時間、全員が勝手に場内を歩き、各自の好みに応じた鑑賞

## 参加者の感想など

### 日韓交流登山に参加して

渡部 昭三



平成二一年五月一日から五日の間、韓国ウルサン山岳会との嶺南アルプス交流登山に参加した。私にとつて二回目の参加であったが、ウルサン

の岳人との友好を深め、韓国の自然を満喫でき、楽しく有意義な時を過ごすことが出来た。心温まる歓待と車の手配から登山中の行き届いた気配り等お世話頂いたウルサン山岳会の李会長はじめ会員の皆様から感謝いたします。

今回の山行の詳細は他の担当者者が報告されますので、徒然に思いつくままに、つたない俳句を入れて報告とします。

博多港からビートルで釜山港に着く。釜山港は世界で有数の貿易港で大きなクレーンが林立しており、また大きなマンションビルが山裾まで林立し、ビルの林に入つたようだ。韓国料理の昼食後、通訳つき借り切りのマイクロバスでウルサンへ。途中釜山の山寺に立

ち寄り見学する。明日(五月二日)がお釈迦様のお祭り(祝日で韓国全部休日)とのことで、お寺ではその準備がなされており、沢山の提灯が境内いっぱい吊り下げられていた。参詣の人や、観光客、山歩きの人などで境内は大変賑わっていた。韓国では六割程度が仏教徒だそう。

今回の食事は三食自炊したので、ウルサンのスーパで三分分の材料を仕入れてから、ウルサン山岳会の歓迎会場に。歓迎会にはウルサン山岳会は二九名(内若い人や女性も多い)大分からは九名参加(内女性三名)、会長他の挨拶、自己紹介等のあと宴会に入り、韓国料理と酒と歌で交流を深める。

クレーン立つ釜山の港風光る  
山寺に提灯みちて花祭り  
アリランの合唱の声山笑う

今回の宿舎は前回と同じ「雲門山自然休養林の宿舎(自炊施設あり)」で、一棟全部借り切りで、広々として快適だ。五月二日、嶺南アルプスの天皇山、戴葉山、三日雲門山の山行。期間中ウルサン山岳会から一〇から一五名同行。一日三食もの料理を早朝から作ってくれた我が支部三名の女性にも大感謝。

万緑にハングルの声満ち満ちて  
韓国の嶺南アルプス春時雨  
日韓の友好たたえ山桜  
絶え絶えの息吹き返す山清水

五月四日は宿舎を引き払い、前日も登った慶州南山の金鳥山に龍長溪谷コースを登る。この山では松林が多く、ウルサンの落葉樹林とは異なっている。登山口でウルサン山岳会のメンバーと来年の再会を約しお別れする。下山後国立慶州博物館を見学、新羅時代の佛像等の特別展示があり、日本の佛像等仏教文化が韓国の影響をうけていることが良くわかった。博物館には子供や学生、親子連れが多く、みんな熱心に見学していた。

李さん手配の車二台で高速道路を一路釜山へ。釜山では最後の晚餐の韓国料理を満喫し、釜山東横ホテルでゆっくりと疲れを癒す。翌日ジョージング後、ビートルで全員無事帰国する。

松の花一山染めてをりにけり  
深々と裏参道の松落ち葉  
新羅の仏の顔や子供の日  
釜山港旅の一夜の臘月

来年は韓国名をついた山である霧島連峰「韓国岳」他に登る予定です。当初からの目的である「登山を通じ日韓の友好を深める」ためにも沢山の人の参加を期待しています。最後にウルサン山岳会の皆さんに「カムサムハムニダ」。

慶州国立博物館



# 蔚山嶺南アルプスを訪ねて

中野 稔



アルプスと言えはヨーロッパのアルプスと呼ぶらしいが、秀麗な山々が連なる山岳地帯と私は思っている。自然の中に包まれると日常の生活を忘れ身も心も洗われる気がする。海水浴、自然浴、温泉だ。体内での十ヶ月の体験は殆ど記憶にないが山の中に入るとその時の記憶が甦る気がする。生命の誕生は奇跡の連続であるように、日常の生活も奇跡の連続であるが、心はその事実に気付かないが様々な事件や戦争、事故や病気に接すると、生きているだけでも奇跡体験そのものだ。地球の様々な国家を単独で旅行すれば、その事実をいやでも身をもって知ることになる。

二年前に蔚山の山岳地帯を訪ねた。爽やかな風と美味しい食事はこの地に生きる人々の優しさが醸し出していると思う。言葉の壁がなくれば、心の交流もより盛んになり争いも無くなる筈だ。生祖母は、新婚時代お世話になった、今は行けない豆満江の辺を訪ねたいと語っていたが、テレビニュー

スで見るしかない。大地を渡る風は月の明かりと同様に万人を優しく包み込む。

好奇心は自由に宇宙と時を超えて駆け回るが、肉体は重たい。心ある所に、肉体が有るのだから、それに従って行けば何処でも行ける。千の風ではないですよ、念の為。

夢の世界では、沢山の思い出の人々が活躍しているが、別れた時のイメージが強く年を取らない事が多い。以前より若く感じたり大人しくなったり、人は様々に変化して行くのを見る事も、また楽しいものである。蔚山や、釜山の町並みや雰囲気も変わってゆくはずだ。日本人々も自然もチェンジして行くが、少しでもいい方向に変わるといいのだが、自然破壊という観点からは悲観的観測が沢山報告されている。数年後に蔚山を訪れる予定にしているが、未来に楽しみと言う夢を持つと、日々の生活に潤いが湧いてくる。誰とどの様に旅するかは現時点では未定だが。

# 日韓交流登山

久保洋一



初日 五月一日は移動。五月二日、沢といつても

ちよつとした川の横の駐車場に車をとめ、山の鳥瞰図の横の木の間を谷沿いに登っていく。やわらかくほんのりあたたかい、やさしい緑。日本の木々の中で感じるのと少し違う、ほのぼのとした感じがある。さわやかな新緑のころだからとも気持ちがいいのだけど、なかにかオブラートに包まれているものを見ていて感がある。不思議な感覚だ。登山道はしっかりしている。登山道の脇に苗木ほどの小さな樺の木をいくつか見つけた。

しばらく登って尾根まで上がると木道や小屋や林道もあった。さらにしばらく登って天皇山へ。ガスで周りが見えなくて残念。天皇山からの下り途中、山小屋で昼食のときも韓国の人に随分気遣いしていた。それからさらに少し戻って先程の木道から分かれ載葉山へ。

途中の稜線から天皇山を見渡せた。載葉山山頂は岩だった。下りは尾根を登り始めの谷まで一気に

下っていくのはかなり急だった。途中、日本より少し大きめの淡いつつじ(?)がところどころ咲いていて目を楽しませてくれた。

次の日五月三日は雲門山、石骨寺の駐車場から入り最初は谷沿い(といっても流れはかなり下の方)に登り、谷から離れるとかなりの急登。稜線に近くなるところに上雲庵がある。ここにもちよつと立ち寄り、畑の先の展望がきくところで記念撮影。

再び登り始めると金淑喜さんが木立の根元を指す。よく見るとリスがいる。動きがとつてもかわい。後は稜線を快適に登り雲門山へ。山頂で昼食。食事のあとガスが少し晴れ山あいの平地が見える。くねくねと曲がったあぜ道らしきらしきものがりんご畑を囲い、なんとも神秘的な模様になっている。圃場整備事業で失われた日本の原風景が懐かしく思い出された。

下りは別ルートで途中ロープが何箇所かある急な下りだ。韓国の人がよく心配りして導いてくれた。さらに風穴を通り谷筋まで下りると登りのときの道と合流し下山。五月四日、この日は天気がよかった。民家の奥の川の横の駐車場から登り始める。途中、つり橋を渡って大きな丸い岩を乗り越え登った。趙愛敬さんとジェスチャ交流の英語で楽しい会話をしながら登った。金鳥山山頂は眺望はきかないが公園みたいに整備されていた。マムシ注意の看板があった。下山して慶

# 韓国山岳会蔚山支部との交流登山に参加して

下川 幸一



昨年、蔚山支部の方々が大方に分かれて来た際、湧蓋山、

黒岳・前岳縦走の二日間を一緒にすっかり意気投合、今回は韓国での交流登山に妻と二人で参加しました。事前に調べた資料で、蔚山広域市の郊外に連なる韓国でも代表的な「嶺南アルプス」の山々に登るといふことで期待いっぱいに参加でした。

昨年二ヶ月間、イギリス・ドイ

ツ・スイスのトレッキングの旅は経験しましたが、本格的な海外登山は今回が初めてです。「嶺南アルプス」は標高一〇〇〇m〜一二〇〇m位で気候や山容も九州とほとんど同じで、新緑に覆われた大自然を満喫することができました。大分の祖母・傾山群で有名なアケボノツツジを連想するヤシオツツジが特に印象的でした。色はミツバツツジのような濃いピンク色で新緑とのコントラストは何ともいえない味わい深いものでした。

よく聞く話では、「韓国には山はあるの?」とか「山は岩だらけで木はないのでは?」と質問を受けます。実際に登ってみると、溪流を飛び越えたり、岩だらけの登山道を早いペースで登ったり、ロープ伝いに下ったりと変化に富んだ山行でしたが手の入っていない大自然の緑あふれる原生林の中、落ち葉の厚いジュウタンの上を気持ちよく歩き、大分の黒岳を思い出す程すばらしいものでした。又、見事な赤松の自然林が麓まで延々と続いており、日本では見られない実に新鮮な光景でした。

今回の五日間の交流で移動日の五月一日、五月五日を除く三日間のうち、二日、三日の二日間はあいにく、曇り空で雨にもあい、山頂からの眺望は残念でしたが、初日に登った記念すべき韓国初の山が嶺南アルプスの代表格「天皇山」でした。かつて日本が統治していた時につけられたとの事で、現在では「獅子峰」と呼んでいる

ようです。歴史を感じさせる「天皇山」の立派な石碑の前で、日本山岳会東九州支部の会旗を広げて感激の記念撮影をしました。あつという間の蔚山三日間の交流登山でしたが、何より私たちが驚かせたのが蔚山支部会員の方々の心温まる熱烈歓迎ぶりでした。初日の歓迎会では東九州支部メンバー九名に対し、蔚山メンバーは二九名もの会員が参加、しかも韓国友好協会の会長も出席され、蔚山の有力新聞が今回の民間交流のすばらしさを大きく報道した新聞記事を読み上げ会場の大喝采をあげる程の力の入れようでした。又、三日間の山行では、宿舎から登山口まで会員の車で送迎いただいたほか、親切で的確な山行案内など心温まるお世話をいただき感謝の一語に尽きます。

今回の交流会での反省としては、今回の交流会での反省としては、言葉が通じず(日本語は勿論英語も)韓国の会員の方々との意思疎通がうまくできなかった点です。ただ懇親会や山行時では「アンニョンハシムニカ(こんにちは)」「カムサハムニダ(ありがとう)」「ただで結構心が通じました」「来年大分でお迎えする時には、「絶対に韓国語で話そう」と思いながら、蔚山での楽しい思い出を胸に大分への帰途につきました。

## 日韓交流登山に参加して

下川智子



五月一日から五日まで四泊五日の韓国山岳会

蔚山支部との交流登山に参加してきました。初の海外登山です。蔚山支部の方々とは昨年、涌蓋山、黒岳前岳縦走で一緒にいて、出迎えていただいた時には久しぶりの友人に会ったような懐かしい感じがしました。二日目、三日目は早朝四時に起きて日本チームの朝食と昼食の弁当を作り迎えるの車に乗り込み出発。韓国チームの先導のもと、ついでいけどそのスピードの速いこと!いつも自分たちが歩くより二倍くらい早く感じた。かなりの坂道や階段もまるで平地を歩くような速さです。歩きにくいにはビックリ!キムチパワー、恐るべし。山容は高くはないけれど木も多く新緑がきれい。しかし岩も多く山行としては厳しいものだった。三日間の登山では何度も蔚山支部の男性メンバーに手を貸してもらった。さりげなく的確にサポートしてくれる彼らがとても頼もしかったです。宿舎では彼らの奥さんたちと台所で一緒に料理を作り、ここでもいろいろ助けてもらいました。言葉がわかればもっとよかったです。けれど、互いの笑顔で双方の歓迎の気持ち感謝の気持ちは十分に伝わった五日間だったと思います。今回の日韓交流登山が成功裏に終わったのは、全て蔚山支部の会員の方々の献身的なサポートのおかげでした。お世話になった皆さんにもう一度「カムサハムニダ」、ありがとうございます。

## 「カムサハムニダ」の心を込めて

飯田ひとみ



日韓交流登山会で行くのは、今年で二度目

の参加でした。蔚山の方々心温まる親切と、目に優しい山々の新緑がふたたびわたしたちを迎えてくれました。今回も嶺南アルプスの山でした。天皇山、戴葉山、雲門山と三つの山とも、もちろん初めての山です。とても新鮮な気持ちで楽しめました。二年前に登った慶州南山にも登りましたが、コースは全く別で初めて山の気持ちで登りました。そして山頂について二年前を思い出しました。天気にも恵まれ(初日に少し降られたものの・・・)何よりも初めて山の登頂できたことに満足しています。雲門山自然休養林内の宿舎では、早朝四時に起きて、ねむい目をこすりながら朝ご飯や弁当の準備をしました。みんなでわいわい、がやがや言いながら作ったことが、

今では良い思い出となって残っています。

ひとつ気になったことがあります。それは、二年前にも感じたことですが、滞在中の蔚山の空気がいつもモヤっていたことです。九州の最近の空がいつもモヤっていますが、それは中国の煙霧の影響だと言う説があります。中国に近い韓国だから、いっそうその影響があるのでは？と考えさせられました。嶺南アルプスの美しい空気が環境破壊の影響で汚されるのはいたましいことです。煙霧の影響ではないことを祈りたいです。

とまれ、蔚山の魅力（すばらしい山と、美味しい料理）にたっぷりと浸った五日間・・・何よりも、韓国の人たちの優しさ、親切さ、心こもったもてなしに感謝の気持ち一杯です。

南山の麓でアニョンヒカセヨ（さようなら）と蔚山の方々に見送られながら、アニョンヒカセヨと手を振ってお別れしました。

## あとがきにかえて

飯田勝之



私にとつて、実は、最も近い隣国である

はずの韓国がずっと長い間、とても遠い国であったように思う。私が子どものころからつい最近まで、外国といえば、そのほとんどが欧米と、アジアでは主に中国であり、時にはインドであった。文化や歴史や、地理や、あるいは経済などについて興味を持ち、関心を抱いたのは、ほとんどがそれらの国々のことであった。

読み物はギリシャ神話であり、シェークスピアであった。トルストイであり、ヴェイクトル・ユーゴであった。三国志であり、水滸伝であった。英雄はアレクサンダー大王であり、ジンギス・カンであり、ナポレオンであった。映画は西部劇やフランス映画であった。そしてエルビス・プレスリーやビートルズであった・・・。

山に関してもあこがれや興味はヒマラヤであり、ヨーロッパアルプスであり、アラスカやロッキーであった。

一時日本にブームを起こした『韓流』も私には興味の外であった。

た。ソウルオリンピックや、サッカーのワールドカップなど韓国を意識することが多くなってきた近年ではあるが、どこか身近に感じるものがなかった。

それが、四年前の一〇月にコンパルホールで急遽もたれたふれあいの場があつて、韓国が私に急接近してきた。

そこにあるものは、やはりふれあいである。アジアで最大のライバルであるサッカー競技では、これまでずいぶん苦しめられてきた日本の選手が、選手同士として一番親しみを感ずるのは韓国の選手だというのを聞いたことがある。互いにしのぎを削りあう、ふれあいがあつて生まれる気持ちであるうと思ふ。

蔚山支部の人たちとふれあうことで、彼らの優しさや、親切さや、心くばりを痛感した。随所に心のこもった歓待が、言葉が通じない中で身にしみて感じさせられた。それは、二年前にも感じたことである。

高度成長をやり遂げ、世界トップクラスの経済大国になった日本が持ってきた思ひ上がり、そして今は経済不況と少子高齢化の中で不安と焦燥感にあえいでいる中で、忘れていたもの、取り残してきたものを教えられる思いである。次のふれあいが待ち遠しい。そんな思いを抱きつつ釜山をあとにした。

## 参加者名簿

| 氏名     | N A M E          | 会員・会友 | 生年月日         | 担当    |
|--------|------------------|-------|--------------|-------|
| 加藤 英彦  | HIDEHIKO KATO    | 8765  | 1942. 1. 1   | 団長    |
| 飯田 勝之  | KATSUYUKI IIDA   | 10912 | 1943. 7. 22  | 副団長   |
| 下川 幸一  | KOICHI SHIMOKAWA | 14504 | 1943. 9. 13  | 会計    |
| 渡部 昭三  | SYOZO WATAMABE   | 会友    | 1938. 4. 11  | 会計    |
| 久保 洋一  | YOIDHI KUBO      | 14168 | 1953. 4. 30  | 進行    |
| 中野 稔   | MINORU NAKANO    | 13997 | 1953. 12. 25 | 記録    |
| 西 孝子   | TAKAKO NISHI     | 8325  | 1932. 2. 3   | 事務局   |
| 飯田 ひとみ | HITOMI IIDA      | 一般    | 1953. 11. 12 | 事務局補助 |
| 下川 智子  | SATOKO SHIMOKAWA | 14505 | 1953. 2. 5   | 事務局補助 |





釈迦生誕祭の飾り付け最中の  
梵魚寺にて



あいさつする加藤団長



歓迎あいさつする具永詰支部



歓迎会会場



歓迎会のテーブルの一部



弁当づくり(五月二日)  
宿泊したロッジ



出発前(五月二日)





錦囊花(カムナンフア)



天皇山登山口



休憩中の談笑



ヤシオツツジ



ロッジでの交換会



シムジョンテ岩の下り



大和撫子の「荒城の月」



李・金夫妻



雲門山・上雲庵にて



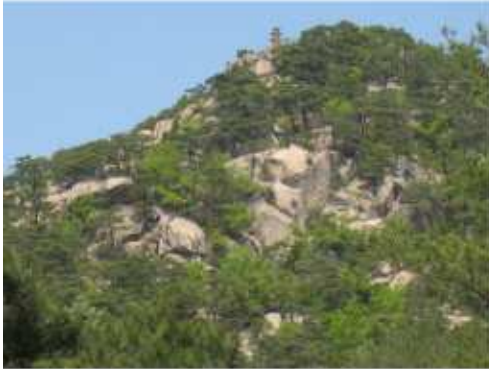
結婚式の引き出物



雲門山西稜の下り



雲門山から見たナン畑の谷



慶州南山



were nigner than the sky. Particularly, the pagoda is harmonious with the natural surroundings. It is regarded as an excellent work constructed during the late Unified Silla period.

**慶州 南山 茸長寺谷 三重石塔**

宝物 第100号  
所在地 慶州北道 慶州府 内南東 茸長寺 山

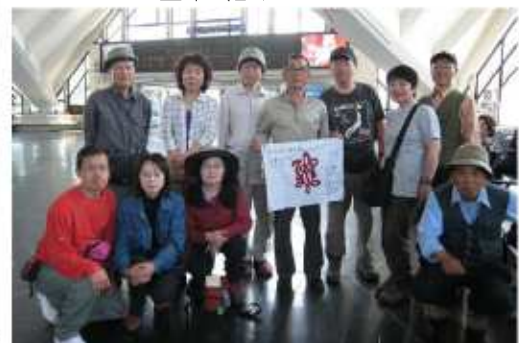
茸長寺の三重石塔は空竈より高いところにおいている。この塔は自然の石を積んで、土見出し。その上に層ごとに石を一つ一つ積み上げた。塔の上端は縮減され、現在塔の高さは4.5mと少ないが、大にどくように高く見えて、自然とのよい調和をなしている。  
製作時期は統一新羅時代と推定される。また、麓のよしの山に建てた塔は高く、高麗時代にまわらむら、高麗の復興を代表するものである。



慶州国立博物館



釜山港にて



日本山岳会東九州支部報 号 外

2007年(平成19年)7月25日(水)

発行者 梅 木 秀 徳  
編集者 飯 田 勝 之  
発行所 〒870-0021  
大分市府内町1-3-16  
サニースポーツ内 西 孝子方  
TEL・FAX 097-532-0926  
題字 (故) 佐藤正八

コースタイムなど (中野メモによる)

|             | 場所          | 時間      | 高度   | 距離    |                                      | 所要時  |
|-------------|-------------|---------|------|-------|--------------------------------------|------|
| 5月1日<br>(金) | 大分駅         | 5:23    |      |       | 「ソニック2号」                             |      |
|             | 博多駅         | 7:50    |      |       |                                      |      |
|             | 福岡港         | 9:05    |      |       | 「ビートル」                               |      |
|             | 釜山港         | 12:10   |      |       |                                      |      |
|             | 梵魚寺         | 13:45   |      |       | 貸切バスで移動                              |      |
|             | 雲門山自然休養林    | 16:25   |      |       | #                                    |      |
|             | 蔚山(歓迎会会場)   | 19:10   |      |       |                                      |      |
| 5月2日<br>(土) | ロッジ発(宿泊所)   | 7:50    | 500  |       | 雲門山自然休養林宿泊所                          |      |
|             | ベネ峠         | 8:16    | 690  | 15    | ロッジから                                |      |
|             | 珠岩村登山口      | 8:23    | 484  | 18.6  | ロッジから                                | 0:33 |
|             | 出発          | 8:35    |      |       |                                      |      |
|             | 尾根(木製の歩道)   | 10:49   | 913  |       |                                      |      |
|             | 天皇山         | 12:39   | 1189 | 3.65  | 登山口から                                | 4:04 |
|             | 山小屋(食事所)    | 13:10   | 1014 |       | 食事休憩30分位                             |      |
|             | 戴薬山         | 14:18   | 1108 | 2.33  | 天皇山から                                | 0:58 |
|             | 岩場下り        | 14:59   | 986  | 1.89  | 戴薬山から                                | 0:41 |
|             | 登山口         | 16:17   | 488  | 2.71  | 戴薬山から・(全登山時間 7:54)                   | 1:18 |
| ロッジ(宿泊所)    | 17:22       | 515     | 18.4 | 登山口から |                                      |      |
| 5月3日<br>(日) | ロッジ(宿泊所)    | 7:56    | 511  |       |                                      |      |
|             | 駐車場         | 8:31    | 238  | 24    | ロッジから溪谷沿いの駐車場                        | 0:35 |
|             | 登山口         | 8:46    | 272  | 0.36  | お寺の境内から登山道にて                         | 0:15 |
|             | 分岐点         | 9:35    | 541  |       | 下山時にこの地点に出る                          | 0:09 |
|             | 標柱(緯度経度の表示) | 9:41    | 587  |       | 35° 37' 13"<br>128° 56' 46" 614m     |      |
|             |             | GPSのデータ |      |       | 35° 37' 13.5"<br>128° 56' 45.5" 587m |      |
|             | お寺          | 10:55   | 1018 | 2.2   |                                      |      |
|             | 雲門山         | 11:39   | 1200 | 0.91  | 登山口から約3km                            | 2:53 |
|             | 出発          | 12:25   |      |       | 南斜面で昼食                               |      |
|             | 岩場          | 13:01   | 1003 | 1.43  | ロープ有り                                |      |
|             | 風穴          | 14:05   | 644  |       |                                      |      |
|             | 分岐点         | 14:39   | 552  | 1.32  |                                      |      |
|             | 滝(写真撮影)     | 15:25   |      |       |                                      |      |
|             | 駐車場         | 15:30   |      |       | 行き 2:53 帰り 3:05                      | 4:51 |
| ロッジ(宿泊所)    | 16:05       | 512     |      |       |                                      |      |
| 5月4日<br>(月) | ロッジ(宿泊所)    | 8:01    | 485  |       |                                      |      |
|             | 駐車場(公園)     | 9:00    | 69   | 43.5  | ロッジから                                |      |
|             | 出発          | 9:05    |      |       |                                      |      |
|             | 橋           | 9:47    | 187  |       |                                      |      |
|             | 仏像          | 10:03   | 303  | 1.6   | 岩尾根の中腹                               |      |
|             | 金鳥山         | 10:54   | 472  | 3.09  | 金鳥山(クモサン)408m                        | 1:50 |
|             | 峠           | 11:43   | 323  | 2.01  |                                      |      |
|             | 橋           | 12:00   | 191  | 1     |                                      |      |
|             | 昼食          | 12:22   | 184  | 0.2   | 行き 1:51 距離 3.09km                    |      |
|             | 駐車場         | 13:07   | 79   | 1.31  | 下り 2:13 距離 4.49km                    |      |
|             | 慶州博物館       | 13:39   | 65   | 15.94 |                                      |      |
|             | 出発          | 15:00   |      |       |                                      |      |
|             | SA          | 16:06   | 25   |       | 小休止                                  |      |
|             | 東横イン(着)     | 16:48   | 3    | 42.98 | チェックイン                               |      |
| 5月5日<br>(火) | 東横イン(発)     | 9:15    |      |       |                                      |      |
|             | 釜山港         | 12:05   |      |       | 「ビートル」                               |      |
|             | 福岡港         | 15:17   |      |       | 釜山～福岡200km                           |      |
|             | 博多駅         | 17:00   |      |       | 「ソニック41号」                            |      |
|             | 大分着         | 19:04   |      |       |                                      |      |